

本山町教育委員会 議事録

平成30年7月定例会教育委員会

場所：プラチナセンター研修室

(1) 開会及ぶ閉会に関する事項

開会 平成30年7月6日(金) 9時00分

閉会 平成30年7月6日(金) 10時05分

(2) 出席者の氏名

出席者	教育長	高橋	清人
	教育委員	小野	雄基
	教育委員	溝渕	有香
	教育委員	前田	侯
	教育委員	山内	美香

欠席者 なし

(3) 議場に出席した者の氏名

教育次長	右城	有紀
研修指導員	鈴木	薫子

(4) 議事・報告

教育長 (高橋教育長挨拶)

ただ今より、定例会を開会します。(省略)

本山町教育委員会会議規則第6条の規定により半数以上の委員、全員が参加していますので、本日の会議が成立していることを報告します。

続いて、今日の議事録署名人を選任します。前田委員、山内委員にお願いします。両人は同意願います。それでは続いて議事に入ります。

議事内容

1. 6月定例会報告

教育長 6月議会での教育関係の一般質問者は6名であった。

河邑一雄議員は、中高一貫教育が十分機能しているかとの質問。それに対しては、中学・高校の6年間を通した一貫教育を展開し、学力の向上、個々に応じた教育活動を推進し、地域の発展に貢献できる人材の育成をめざし、同居連携型中高一貫教育を進めている。

一番のメリットは、学力の向上策として、国語・理科の授業においては、1クラスに高校、中学校の教員2名体制での授業を展開。英語・数学においては習熟度別に2クラスに分けて高校の教員と中学校の教員で授業を展開。また専門の教員の授業を受けることも可能で学力向上に結びついている。

上田亜矢子議員は、病後児保育等の訪問型の受入は出来るのかとの質問。それに対しては、今まで、病後児保育等について、町においての開設は人材確保や運営等において困難。議員提案の訪問型の受け入れは、事業主の体制等の審査が必要だが対応できる。

吉川裕三議員は、中学校の制服代の補助についての質問。

財政当局との協議を踏まえ、新入生徒からの家庭の負担軽減になるように対応する。としている。

長瀬美和議員は、学校給食における地場産物の活用についての質問であり、学校給食における地場産品の活用・地元の商店の利用は最大限努力する。

昨年度の給食センターの食材購入額27,100千円の内、地場産品の購入額(さ

くら市、こんにゃく、精米、干し椎茸等) 3,650 千円、地元商店での購入額は、10,800 千円であり、地場産品と地元商店での食材購入額は全体の 53.3%。である。

岩本誠生議員は、①嶺北中学校に中学校の体育館の無いことによる支障・対応との質問。部活動において、一部嶺北高校以外の体育館を使用。中高の運動部活動の保証と教育環境の整備を図る上からも、バレーボール 1 面ぐらいの体育館があればと考える。②中高一貫教育の成果・検証は、どうすれば嶺北高校へ進学すると考えるかについては、夢や希望を叶えるためにも、また夢や希望の選択肢を広げるためにも学力向上は欠かせない。特に高等学校は、その夢や希望をかなえることができる学校として、生徒や保護者に選んでいただける、高等学校でなければならないと強く感じている。また、中高一貫は、学力向上に繋がっている。③学習センター、よその公設の学習塾に負けないシステムが導入できればと思うがとの質問には、学習ソフト方式も頭に入れながら、今後、学習センターの内容充実について考えていきたい。としています。

小野委員 自前の体育館となると町立か、財政的に厳しいのではないかと。
教育長 補助金を頂かなければ厳しい。また、土地を購入しての建設も難しいと考えている。現在の高校の敷地内だと考えるが、県との協議が必要である。
小野委員 制服代の補助について、近隣の状況は。保護者は近隣との比較をどうしてもしてしまう。
教育長 大豊町、大川村が制服の全額を補助している。大豊町は、教材費についても補助している。本町も教材費についても検討したい。

2. 夏期休業中の研修日程について

鈴木指導員 7 月 23 日 嶺北中学校校内研修 公開で実施。中部教育事務所や他町村も参加予定と聞いている。

8 月 16 日 第 2 回本山町教職員研修会

8 月 22 日 新転入教職員研修会 昨年実施が出来なかったため 20 数名参加予定。

委員の皆さんも参加をお願いします。

3. その他

①教育長の業務報告・今後の予定について

教育長 資料を基に説明。今後の研修会等、委員の皆さんの参加をお願いします。

溝淵委員 7 月 5 日嶺北高校の魅力化の会の状況について、状況はどうなっているか。

教育長 7 月 5 日は西日本豪雨のため中止。現在の状況は、県外からの高校生受入に向けて、東京・大阪等への説明会へ参加している状況です。私は、学力を上げる取り組みが必要と考えている。夢や希望を叶えられる学校として認めてもらえるように、梶原高校、大豊町のような公設塾も検討すべきではないか。

②事務の不適正について

教育長 資料を基に、奨学金の返還金の未請求件、保育料事務のミス、独立行政法人日本スポーツ振興センターの事務のミスと、保護者等への対応を説明。

今後の対策として、保育料等事務を 1 人に任せきりにしないシステム作りと保育料確認リストや減免リストを活用してのチェック・フォローの実施。また保育所の園児名簿との照合も担当者以外が行うことが大事。

会計事務についての研修会や職場会の定例化、職員との面談。(職員の悩みや現在の状況確認の実施)、ほうれんそう(報告・連絡・相談)の習慣化の徹底を図っていく。

前田委員 今まで保護者からの話は無かったのか。

教育長 保護者からは、何回か言って行ったという話があったが、対応が出来ていなかった。

小野委員 保育料の請求事務は煩雑なのか
右城次長 平成 27 年度より新制度となり、内容を十分理解できていなかったのではないか。入力ミス等がある。また他の業務も兼務しており、業務量も多いと感じる。

小野委員 職員の事務範囲が広い職場では、職員数は十分なのか
教育長 事務量の多い中で、保育事務を後回しにしてきたことが、今回のことに繋がったのではないかと。全体の職員数が減ってきているが、町長とも協議をしたい。

小野委員 支払いは現金か
教育長 口座引落しが多くなっている。引き落としできなかった時は、一覧表で確認し、納付書を送付することとなっているが、そのことも出来ていなかった。申し訳ない。

溝渕委員 保育料滞納者はいるのか。
教育長 いる。現年度の納付に努め、滞納額を増やさない取り組みが大事。

小野委員 保育料の時効は。
教育長 時効は 5 年。時効にならないように、少しでも入金をしていただくように話をしている。

③その他

小野委員 小学校で英語が苦手、嫌いが 48%となっていた。授業を見ても、もう少し声を大きく、アピールすることが大事では。後の協議に出れなかったが、どんな意見があったか。

鈴木指導員 この前の授業では、活動のルールや設定、また大きな声を出す練習等をし、出せるようにすることが課題。また英語だけではない。子どもの苦手なことへの対応が大事ではないかなどの意見があった。

前田委員 時間が来ても、教室に入らない子どもがいて聞く。学校の対応、指導は。子どもが自由すぎるのでは。

教育長 言語の活動等を見にいったときに、チャイムがなっても教室に戻らない子どもがいた。その時、注意し教室に戻した。

山内委員 先生は注意をしているのか。

鈴木指導員 先生は注意している。なかなか言うことを聞かない子どももいる状態。親にも知っていただくことも必要。教育相談も必要。

溝渕委員 親が知らないではいけない。親にも伝える事が必要。

教育長 校長に現在の学校の状態等確認し対応する。

小野委員 親の考え方で、学校に来ていない子どもさんはどうなっているか。

教育長 親とも協議を行っているが、まだ学校へは着ていない状況。

教育長 その他、何かありませんか。無いようですので、以上をもって本日の教育委員会を閉会します。

次回の委員会は、8 月 3 日 16 時 30 分からとします。

ご協力ありがとうございました。